

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立気仙沼中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 988-0073

宮城県気仙沼市笹が陣4-1

E-mail kesenuma-chu@kesenuma.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 121 名 女子 83 名 合計 204 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校の ESD は、総合的な学習の時間を通して、(1) 自らの課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える事ができるようにする。をねらいとしている。

学習活動を進める上で、①「安心・安全」②「福祉」③「志」の三つをテーマに掲げ、「環境教育」「ふるさと教育」「人権教育」「福祉教育」「志教育」等々の関連を図りながら、持続可能な社会づくりの為に担い手として、資質・能力及び態度を育てることを目標にしている。

具体的には、①調べ・検証活動を通して、災害から身を守り、安心安全な町づくりを学ぶ。②体験学習を中心に、災害弱者の視点から障害者とのコミュニケーションの方法を学ぶ。③将来の自分を考える場を通して、気仙沼の担い手として、よりよい生き方を学ぶ。以上の学習を行った。

① 安心・安全に関わる学習

1 学年では、自然災害の仕組みや防災について、調べ学習を行うと共に、気仙沼市危機管理課職員を講師に、気仙沼が危惧する自然災害と市の防災計画や個人・家庭の防災の心構えを学んだ。

2 学年では、気仙沼市の復興・復旧状況について、調べ学習を行うと共に、気仙沼市震災復興・企画部職員を講師に、市の震災復興計画を学んだ。

3学年では、震災後、早々に建物を再建しながら営業を再開した、魚市場、水産加工場、新しくエネルギー開発に取り組む企業、防潮堤や道路工事に取り組む企業の実地見学をすると共に、気仙沼市の震災復興・企画部職員を講師に、将来の気仙沼をどの様に作り上げていくかをワークショップ形式で学習した。また、全校での地震・火災避難訓練を実施した。



1 学年 市危機管理課 防災講話



3 学年 市震災復興・企画部ワークショップ



気仙沼CTエネルギー開発視察



3 学年 湾岸防潮堤や道路工事視察



3 学年 魚市場説



3 学年 魚市場内視察

② 福祉に関わる学習

1 学年ではキャップハンディー体験，2 年生では点字の読解と制作体験，3 年生では手話体験を通して，身体に障害をもっている方とのコミュニケーションを図る方法と個を理解することを学習しました。また，命の大切さ学ぶため，全校生徒が救急救命法の体験をした。



1 学年 キャップハンディー体験



2 学年 点字読解と制作体験



3 学年 手話体験

③ 志に関わる活動

全校生徒一人一人が，将来の夢，働くことの意義，進路選択の重要性，よりよい生き方等々を学ぶきっかけとして，1 学年では職場訪問，2 学年では職場体験，3 学年では，大手企業訪問，全学年で進路説明会，卒業生の話を聞く会を開催した。



1 学年 職場訪問



2 学年 職場体験学習



3 学年 企業訪問



全学年 卒業生の話を聞く会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (将来の自分を考える, 安心・安全な町づくり)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

使用した教材等は、学校独自のワークシートや協力をいただいた団体・企業が準備したものを使用した。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校では、ユネスコスクールとして、ESDを主に総合的な学習の時間の中で、①「安心・安全」②「福祉」③「志」の三つをテーマに、「環境教育」「ふるさと教育」「人権教育」「福祉教育」「志教育」等々の関連を図りながら、持続可能な社会づくりの為に担い手として、資質・能力及び態度を育てることを目標にしている。平成29年度に学習計画を見直し、震災後の気仙沼の状況から生徒に身に付けさせたい力を、課題発見から解決までの過程を経験させることで、思考・探求・判断・表現等の力を伸ばすことに重点を置いた。指導に当たっては、専門的な視点から地域人材の積極的な活用を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学習テーマは全学年共通で、明確である。全生徒で取り組ませる学習と、学年の段階を考慮して3年間の学習を積み上げることで身に付けさせたい学習とに分けて学習を進めている。全ての体験学習が生徒にとって「生活」「知識」として役立つ内容になっている。また、学習の成果は、文化祭での掲示やステージ発表を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

個人や班で取り組むワークシート、レポート、掲示物、感想文等を蓄積して生徒個々の取り組みや変容を評価に結びつけている。保護者に対しては、学校・学級通信等で活動の状況を知らせている。また、年度末に教職員による見直しを行い、次年度の活動改善を図っている。

生徒は意欲的に学習に取り組んでおり、保護者の評価も上々である。課題としては、活動が多岐にわたっているので、探求活動が深まるように計画を改善する必要がある。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

学習の成果は、レポートや掲示物にまとめ、廊下掲示すると共に、文化祭で展示発表した。また、各学年の代表が文化祭のステージ発表を行っている。また、市のESD/ユネスコスクール研修会で、市内の幼・小・中・高校が集まり、代表校の実践例を基に、成果や課題等について情報交換を行った。本校の取組と比較することで、学習内容の見直しと質の向上につながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

気仙沼市総務部危機管理課防災情報係，気仙沼市震災復興・企画部，宮城県気仙沼保健福祉事務所，気仙沼市社会福祉協議会，気仙沼市障害者生活支援センター，気仙沼消防署，気仙沼CTエネルギー開発株式会社，株式会社足利本店，株式会社菅原工業，気仙沼魚市場，等々

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

ESD担当教諭が気仙沼市の主催するESD／ユネスコスクール研修会やESD／RCE円卓会議に参加している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

気仙沼市教育委員会が主体となり進めてきたESDであるが、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方が日々の教育活動にしっかり浸透していると感じる。特に、「持続可能な～」というキーワードは、総合的な学習の時間に限らず、教科や諸活動の指導計画を立てる場合に、教育活動全般の基板になっていると感じる。

（3）平成30年度の活動計画

本校のESDは、総合的な学習の時間を中心に取り組む。平成29年度に指導計画を見直し、全体の学習テーマを(1)「安心・安全」(2)「福祉」(3)「志」の三つを掲げた。

学習活動としては、①調べ・検証活動を通して、災害から身を守り、安心安全な町づくりを学ぶ。②体験学習を中心に、災害弱者の視点から障害者とのコミュニケーションの方法を学ぶ。③将来の自分を考える場を通して、気仙沼の担い手として、よりよい生き方を学ぶ。と考えた。

ESDを推進していく上で留意点を次に挙げる。

- (1) 持続可能な開発目標SDGsの目標の活用を図る。
- (2) 各教科・領域等で身に付けた学力を生かし、課題解決能力の向上に努める。
- (3) 学校教育活動に協力していただける、個人・団体等の地域人材の確保。